

1 有機ほ場における各種野菜の栽培調査（続報）

前号でお知らせしていた標記の栽培調査について、結果概要をお知らせします。

I. スイートコーン

以下の6品種を3作期に分けて収穫し、比較試験を行いました。

作型：直播・無マルチ露地栽培（本葉展開まで鳥害防止と発芽促進のために不織布をべた掛け）

供試品種：味来946（朝日工業），おおもの（ナント種苗），あまいんです（渡辺農事），
恵味ゴールド（清水種苗），甘えん坊（トーホク），きみひめ（フジイシード）

栽植密度：畝幅75cm，株間35cm／各品種1条播き

播種：【I作期】5月28日／【II作期】6月7日／【III作期】6月17日

収穫開始：【I作期】8月19日／【II作期】8月28日／【III作期】9月6日

《結果》

I作期は生育初期の早魃で収量が伸びない品種があったものの、おおむね基準（一果重：400g）を満たしました。雌穂重で見たボリューム感では、味来946や恵味ゴールドが優れていた一方、糖度では甘えん坊やきみひめが高い傾向でした。今回の供試品種の中では、両データに秀でた恵味ゴールドを一番に挙げました。

作期別	味来946	おおもの	あまいんです	恵味ゴールド	甘えん坊	きみひめ
I作期	14.9	14.9	16.4	17.3	17.3	15.3
II作期	15.3	16.4	18.0	19.1	18.8	19.0
III作期	16.4	18.9	15.6	18.7	17.6	18.9
平均	15.5	16.7	16.7	18.4	17.9	17.7

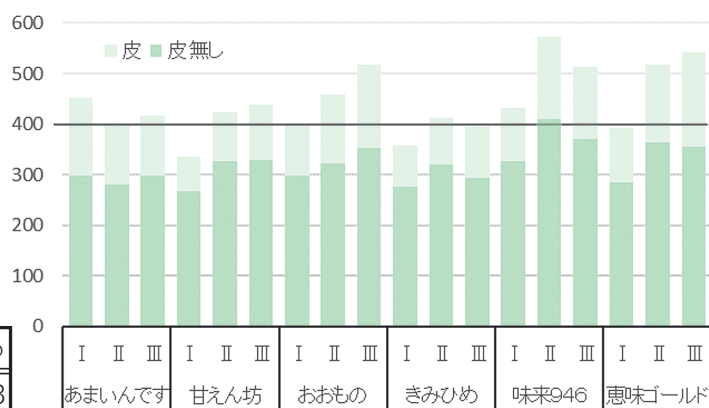


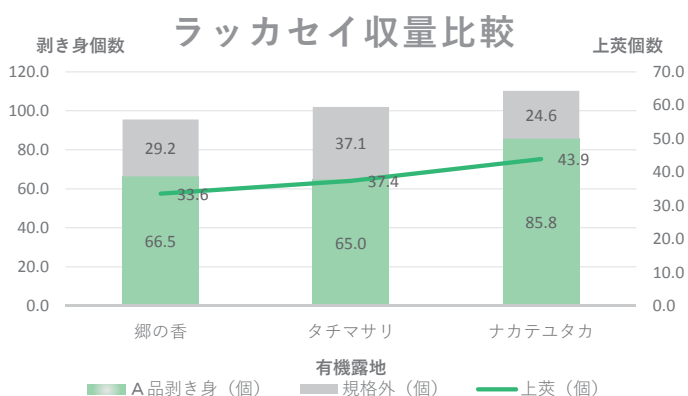
図 各品種の作期別雌穂中比較 (g)

←表 各品種の作期別糖度測定結果
(すりおろし果実を糖度計HORIBA PAL-1で測定)

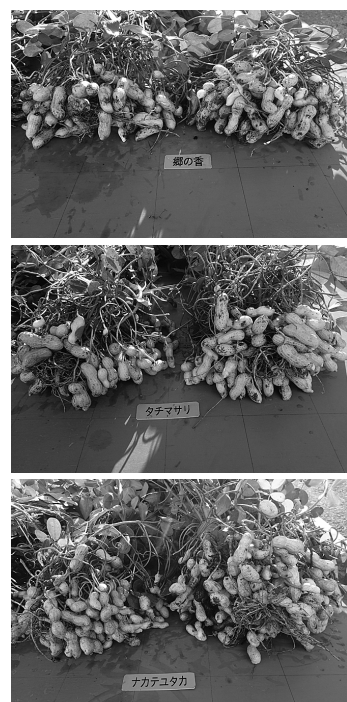
II. ラッカセイ

道内でも栽培可能とされている3品種（郷の香（中早生），タチマサリ（早生），ナカテユタカ（中生））の品種比較を行っています。高収量が期待できる作物ですが、高温性作物なのでマルチ被覆した上、花落ち後は株周りのマルチ剥ぎの手間が掛かるのが難点です。

今年は5月1日から50穴セルで22日間育苗後定植し、10月18日に収穫（在圃日数：148日）しましたのでその結果をお知らせします。道内での標準的な1莢収量は100g程度と言われていますが、郷の香：92.5g～ナカテユタカ：127gとほぼ良好な収量でした。



左図はその内の上莢と剥き身の株当たり収量ですが、ナカテユタカが好成績で、A品率も77.7%と一番収量がありました。主な病害としてはカップン病があり、初年は少発でも連作する毎に多発するので、注意が必要です。直売向け品目として面白いと思います。



写真：上から郷の香、タチマサリ、ナカテユタカの着莢状況